



第二号  
平成22年3月8日  
発行  
熊本市高平2-20-35  
曹洞宗 浄国寺  
編集者  
中山 義昭

### 春季彼岸会法要 先住一周忌

二月になり、気温が一定せず、体調を崩されている方もおおいのではないかと心配しております。

今年も、下記の日程で恒例の春のお彼岸の先祖供養の法要を営みます。

昨年のお彼岸の直前に、先代住職が倒れ(十九日でした)、危篤状態に陥り、法要中に何時訃報が入るか心配で導師を務めておりました。その後二日間はお祈りして呼吸を続けていきましたが二十六日に遷化致しました。今年度のお彼岸の法要にあたり、先代住職の小祥忌(一周忌)の供養も併せて営みたいと考えます。寺の再建と興隆に一生をかけて精進していただきました。檀信徒の皆様にも一緒にご焼香頂ければ何よりの供養になるのではないかと思います。当日、小祥忌の導師には曹洞宗熊本県第一宗務所長 宇

城市小川町の妙音寺ご住職 池田大智老師を拜請してまいります。一周忌の法要から続けて彼岸供養を行います。全体の時間は、例年より十二、三分長くなるかとは思いますが、宜しくお願い申し上げます。

先住は、寺に収められるお布施は全て寺の爲だけに使っておりまして、自分のサラリーマンとしての収入も寺の復興に注いでおりました。私も同じようにお寺の爲だけに使っております。今回の一周忌に当たり、お彼岸の回向とは別途の先住へのご香典等は、お気持ちだけで拝領致したく存じますが、お気を付けていただきたく、甚だ失礼とは存じますがお願い申し上げます。師匠は、寺が立派になる事だけを願っていただけで、それを望むと思いません。

### 浄国寺春季彼岸会

日時 平成二十二年三月二十四日(水)

午前十一時より

当山七世中興無関道全大和尚 小祥忌

彼岸会檀信徒総供養

法話 大分県杵築市

浄土寺住職 井福 昭道 老師

簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の葉書で返信下さい

### 浄国寺は

浄国寺は曹洞宗のお寺です。前回の浄国寺通信で、浄国寺の簡単な歴史及び先代住職の足跡について説明しました。今回は浄国寺が属している曹洞宗について書きたいと思えます。

曹洞宗は一般に禅宗と呼ばれる宗派の流れの一つです。禅宗というくらいですから、教えの中心は坐禅です(もちろん、仏教ですから、ほとんどの教えが、真ん中です)。禅宗はインドで起こり、インド人であるダルマ大師(縁起物のダルマさんはその姿です)が中国(梁の時代)に伝えまし

た。最初、王である武帝に説きましたが、理解を得ることができず、嵩山少林寺にこもり九年間壁に向かつて坐禅を続けました。ようやく教えを嗣ぐ事ができる慧可禪師が弟子となり、中国に禅宗が広がっていききました。日本では鎌倉時代、我が宗派の開祖である道元様が、最初延暦寺等で修業を積みましたが、納得が

できず、真の仏法を求めて中国(宋の時代)に渡りました。中国で教えを求めて修業を続け、天童山で如浄禪師と出会い、教えを受け、誠の仏法に目覚め、その教えを日本に持ち帰り広めました。道元禪師は、永平寺を修

行道場として開き、修行者を指導し、弟子にその法を引き継ぎました。3代目の弟子である瑩山紹瑾禪師は、道元禪師の教えを更に深め、より多くの人に分かり易い形に作り上げました。又、能登に総持寺(現在は横浜鶴見にあります)を開き、多くの弟子を育てました。結果、曹洞宗は現在のようになり、日本中に広がることとなりました。この事を以て、曹洞宗では道元禪師と瑩山禪師を両祖として祀り、永平寺と総持寺を両本山としました。

曹洞宗  
本尊 釈迦牟尼佛  
両祖 道元禪師 瑩山禪師  
本山 永平寺(福井県) 総持寺(横浜市)

教え 只管打坐  
何かの目的で坐禅するのではなく、坐禅そのものが修行であり悟りの姿である

經典 修証義、般若心経  
一つの所依の經典は無い

浄国寺年間行事

二月二十四日 春季彼岸会  
(檀信徒総供養)

五月二十九日 松本喜三郎  
墓前祭

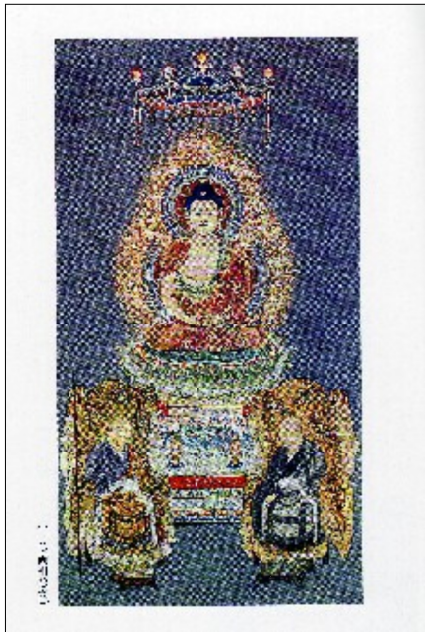
当寺安位の谷汲観音像の作者 松本喜三郎翁の命日供養と観音像の供養を行います。当日は併せて講演会や奉納音楽会等行っています。

七月二日 施餓鬼法要

お盆の檀信徒総供養

棚経(お盆)檀信徒のお盆供養は施餓鬼 鬼法要で行います。原則として初盆の場 合のみ伺います。

その他 正月の修証会(年頭の安泰祈願)や四月の花祭り(お釈迦様の降誕会)も厳修しております。どうぞご参加下さい。



一佛両祖図  
中央 釈迦如来  
右 道元禅師 左 瑩山禅師

年間行事について

浄国寺の年間行事は、以上の通りです。お彼岸は春のみ営みます。秋は、幼稚園の運動会と重なる都合でお休みにしてあります。お盆に関しては、七月三日に行います。施餓鬼法要にて檀家各家のお盆の先祖供養を合わせて行います。以前は、希望されるお宅全部にお盆の期間中(七月一三、一五)又は八月同日)にご自宅を回って棚経を挙げておりました。しかし一二年ほど前、私が内臓疾患で倒れたこと、先代住職も高齢になり運転等が危険になったこと、何より檀家様の数が増えた事もあり、全てのお宅を回る方法をやめて、施餓鬼法要で供養する形に変えました。尚、初盆の場合はご自宅に伺います。日程は希望をお聞きした上で、近待って連絡致します。施餓鬼供養の餓鬼というのは、誰も供養をしてくれない方御霊の意味です。決して皆様方の先祖が餓鬼と言っているわけではありません。誰も

供養をしてくれない御霊をみんなで供養すること、それぞれの家の先祖の供養に回し向ける意味です。松本喜三郎墓前祭は八年ほど前から松本喜三郎顕彰会と共同主催で行っているものです。喜三郎作のもう一体の観音像である聖観音像がある、来迎院で一〇月一八日に観音院が行われますので、当寺では喜三郎翁の命日に翁の供養を行い翁の業績を讃えると共に、当寺安位の谷汲観音像の供養も行います。これは、私の勝手な解釈ですが、喜三郎さんは名人形師であつた共に興業師としても一流でしたので、その命日に多くの人が集い楽しむような企画を行えば、きっと喜三郎さんも喜ぶだろうということですから奉納音楽会も合わせて行います。お寺は、先祖供養以外にも、人が集う場所でありたいというのが昔からの私の願いです。これから色々企画しますので、宜しくお願ひします(昨年は九月に今年南里文雄賞を受賞したベースト鈴木良雄氏を呼びました)

浄国寺坐禅会

毎週木曜日 夜八時  
会費、会則一切なし。  
一炷(四十分) 終了後に坐禅に関する本の輪読  
ゆつくりした服装で

浄国寺坐禅会は、先代住職が高校教諭の頃から行っていますので、五〇年は続いていると思えます。近年、世相不安の爲か一般の坐禅希望者が多くなっています。又、熊日生涯学習センターに於いても「坐禅と普勧坐禅儀の講話」という講座があり、それも定員一杯の状態で(私が指導と講義をしています)。せっかく浄国寺との縁もあります。檀家の皆様も一度坐禅の体験をされては如何でしょうか?

今回は、お彼岸の案内と曹洞宗の歴史、浄国寺の年間の行持について記しました。次からは曹洞宗や禅の考え方や私自身の考えにも触れたいと思っています。又、近年縁あつて檀家になった方もいらっしゃると思いますので、住職自身の自己紹介も書いてまいります。宜しくお願ひ申し上げます。